

29年度学力向上のための取組

両津小学校研究推進部

1 学力向上に向けた自校の基本方針

○「全校体制で取り組む学力向上」

- (1) 研究主題「思考力・表現力の向上を目指して～かかわり合う授業を通して～」2年次を掲げ、授業改善に取り組む。(9月12日、学習改善調査研究事業協力校報告会)
 - ①「思考力・表現力」を習得させるための授業
 - 身に付けさせたい力を明確にし、子どもの問いや願いを生み出す働きかけを工夫する。
 - かかわりを通して、授業の冒頭で、「問い・願い」をもたせる。
 - ・思考のズレを生かして、子どもと共に学習課題を設定する。
 - ・思考のズレを生む学習問題の工夫で学習課題を設定する。
 - かかわりを通して解決し、授業の最後に、学習したことを書かせる活動（まとめ・振り返り）を位置付ける。
 - ②「かかわり合う（話す・聞く・話し合う）」姿の意識化
 - 子どもがかかわり合いを授業で意識できるようにし、学期ごとの評価させる。
 - ③「かかわり合い（考えの広がり、深まり）」の具体化
 - 自分・教材・ノートとのかかわり・・・自分の考えをもつ
 - ・多様な考え方、感じ方と出合わせ、自分とのかかわりから考えさせる。
 - ペア・全体でのかかわり・・・「問い・願い」をもち、解決に向けての話し合い
 - ④ 日常的に「書く」内容の充実
 - 理由を説明する力を重点化する。
- (2) 中学校区や家庭と連携しながら、家庭学習に進んで取り組ませ、計画的に学習する習慣の定着に取り組む。
- (3) 反復学習を大切にし、基礎・基本の定着を図る。
- (4) 個に応じた指導を行い、学力差の解消をする。

2 具体的な取組

(1) 授業改善への挑戦

- 1人1授業研究以上公開する。
- 板書・ノートの写しを持ち寄り、情報交換を行うことで基礎的な授業力の向上を図る。
- 研究の日常化を図っていく。詳細は、後日配付の校内研究計画を参照。

(2) 家庭学習の習慣化

- 授業と関連付けた基礎的・基本的な学習内容の定着を図る。また、各種テストに向けて、過去問題や確認問題等にもチャレンジさせる。
- 学年×10分（低学年は30分以上）の家庭学習時間をめあてにし、家庭学習の習慣作りを行う。3年生以上は、自主学習も推進する。
- 家庭と連携して家庭学習ファイル（低学年は音読カード）を活用し、子どもたちに家庭学習の意識付けを行う。また、家庭学習メニュー、テストの受け方などを参考にさせる。
- 家庭と連携して家庭学習強調旬間を学期1回設ける。

- 家庭学習情報交換会を行う。
- 家庭学習の習慣化に向けて、保護者と話し合ったり、学級通信で知らせたりし、協力体制をつくる。

(3) 基礎基本の定着・学力差の解消

*朝の始業前の時間を各クラスで有効活用する。

* 8時40分には、授業開始できるようにする。

○スキルタイム（朝スキル）

- ・週2回朝スキルの15分間（国語・算数のいずれかを行う）
- ・1・2年生は、国語・算数の学習内容の定着を図れるように補習する。
- ・3年生以上は、Webテストに向けての予習・復習の時間とする。

○朝読書・読み聞かせの推進

- ・朝読書は、水曜日に行う。（職員朝会時）可能な日は、司書の先生による読み聞かせを行う。
- ・読み聞かせは地域ボランティアを募集し、実施する。毎月第一火曜日の昼休みに、佐々木裕子先生の読み聞かせを第2図書室で行う。

○パワーアップタイム

- ・パワーアップタイム（毎週木曜昼休み）では、担任が個別指導を要する子どもを対象に指導し、他の子どもを地域ボランティアにお願いし、個に応じた補充学習や発展学習を実施する。

(4) 中学校区の実践（学習のきまり）

○ 学習規律の定着

中学校区の重点事項（*昨年度のきまりを継続予定）

- ①時間になったら、席に座って待つ。
- ②話す人を見て、最後まで聞く。
- ③相手に聞こえる声ではっきり話す。
- ④次の時間の準備をしてから遊びに行く。
- ⑤ノートをしっかり書く。（めあて・ふりかえり）

- ・各クラスに掲示をする。
- ・子どもが意識できるように、声掛けをする。
- ・**年3回学期末に評価し、中学校区で共有する。（○人中○人・・・8割以上できた人数）**

子どもの評価・・・◎8割以上の日できた

○6割～8割未満

△6割未満

教師評価・・・子どもの評価と同様に行う。

出張授業の教師も担任と一緒に評価する。